

【競 技 注 意 事 項】

- 1 規 則 2025年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項に準じて行う。
- 2 変更・訂正 当日の種目及び選手の変更は一切認めない。プログラム誤記訂正は8時30分までに本部へ届け出る。
- 3 欠場について 各種目にやむをえず欠場をする者は、できるだけ早く招集所(競技者係)に申し出ること。
- 4 練 習
 - ①練習は競技役員の指示に従って行うこと。ただし、フィールド競技の練習は現地での招集後、競技場内で行うことができる。特に投擲練習は、競技役員の指示に従って試技順に競技場内で行うこと。
 - ②競技に支障のない範囲で主競技場のバックストレートを開放する場合がある。その際、競技役員の指示に従い、事故には十分に注意すること。
 - ③最初の競技開始20分前(8時40分)まで主競技場を練習に開放をする。その際、下記に練習のレーンの区分けを行う。1～3レーン周回練習(ジョギングなど)、5～8レーンスピード練習、ただしホームストレート7・8レーンはハードル練習とし、4レーンは空ける。なお、競技役員及び競技者以外は、トラック・フィールド内に立ち入らないこと。
 - ④競技場外のいかなる場所でも投擲練習は禁止する。
※競技場外での練習については一般の方等との接触事故など周りに十分注意をして行うこと。
※練習中は、下記の点に注意すること。

(1) 逆走しない。(2) 走り終わってすぐに左右に曲がらない。後方を確認してから8レーンの側から出る。
(3) 走路上で立ち止まらない。(4) 走路を横切るときは左右を確認する。(5) お互いに譲り合って練習する。
- 5 競技用靴 2025年度日本陸上競技連盟競技規則TR5.2及び(国内)競技用靴に関する主要規則を適用する。(靴底の最大の厚さは、すべての競技で20mm)
- 6 アスリートビブスについて
 - ①アスリートビブス及び腰ナンバー標識は主催者が準備したものを使用する。ただし、中学生は伊勢原地区中体連指定(4桁番号)のもの、高校生は高体連指定のものを使用する。
 - ②アスリートビブスは、胸と背に確実に留める。ただし、跳躍種目ではアスリートビブスは背または胸につけるだけでもよい。
 - ③トラック競技の競技者は、腰ナンバー標識を競技者係から受け取り、右腰やや後方につける。ただし、4×100mRは第4走者のみ受け取り、つける。
 - ④安全ピン(8本)は各自準備、トラック競技に出場選手は腰ナンバー標識用を含めて12本用意すること。
※アスリートビブス、腰ナンバー標識ともに競技終了後、返却はしない。
- 7 招 集
 - ①招集は100mスタート側、器具庫付近で行う。
 - ②招集は招集所(競技者係)において本人が行うこと。その後現地での最終チェックを行う。招集時間は、競技日程に記載されたとおりとする。なお、招集はアスリートビブス確認のため、必ずユニフォームを着用して、アスリートビブスとスパイク・シューズの点検を受けること。
 - ③スパイクのピンの長さは9mmとする。
 - ④リレーのオーダー用紙は招集所の競技者係にて受け取り、競技開始1時間前まで招集所の競技者係に提出する。その際、第4走者は腰ナンバー標識を受け取る。また、10分前に競技地点(各走者スタート地点)で最終チェックを行う。
 - ⑤1つの種目に出場していて、他の出場種目と競技や招集の時刻が重なる場合は、当該競技主任に申し出て許可を得てから競技場所から離れること。
※招集に遅れた場合は棄権とみなし、競技に参加することができない。
- 8 トラック競技
 - ①トラック競技は全て電気計時で行う。
 - ②同タイムの競技者及びチームについては、写真を細部まで読み取り、優劣を判定する。判定できない場合は、同タイムの競技者及びチームの代表者によって抽選とする。
 - ③スタート合図は、イングリッシュコマンドで行い、**1回目の不正スタートで失格**とする。
小学生種目は全国小学生陸上競技交流大会のルールに準じて行う。**スタートはイングリッシュコマンド。**
同一競技者が**2回不正スタートで失格となる**。ただし、レースには参加できるが、記録は参考記録で扱う。
スタート時の不適切行為に関しては、審判長(スターター主任)によって警告(イエローカード)を与えられることがある。本大会は、種目ごとの累積とし、同一種目のイエローカード2枚で当該種目のみ失格(レッドカード)とする。ただし、競技会からは除外しない。
 - ④800m、1500m、3000mはオープンスタートとする。
 - ⑤リレー競技において同一チームの競技者は、同系色のユニフォームを着用すること。
- 9 フィールド競技

フィールド競技の試技順はプログラム記載の順番に従い行う。

砲丸の規格	中学男子(5.000Kg) 中学女子(2.721Kg)
	高校男子(6.000Kg) 一般男子(7.260Kg) 一般女子(4.000Kg)

※投擲種目の用器具については競技場に備え付けのものを使用する。個人の用器具の使用は一切認めない。
走高跳のバー上げ方は次の通りとする。(当日の状況によって審判長が指示を出すこともある。)

	練習	バーの上げ方
男子	1m25	1m30～1m80まで5cmずつ 以後3cmずつ
女子	1m10	1m15～1m60まで5cmずつ 以後3cmずつ
- 10 助力について 競技場内での助力は禁止とする。競技区域外で競技者が録画された映像を見ることが録画再生機器を手にしてもよいが、場所などは競技役員の指示に従うこと(競技場の形状等ですぐ近くで手渡しができない場合は、無理(落とす、投げる等)をして渡さないこと)。スタンドからの助言については競技運営ならびに他の競技者の競技に妨げにならない範囲で認めるものとする。文書をもって連絡することや、当該競技場所を勝手に離れることはできない。また、ビデオ・ラジオ・CD・トランシーバー・携帯電話もしくは類似の機器等を競技場内に持ち込むことはできない(競技規則TR 6)。
- 11 表 彰 表彰式は行わない。ただし、入賞者(1位～3位)の賞状は、正式記録アナウンス後、本部に取りに来ること。団体においては代表者が取りに来ること。
- 12 そ の 他
 - ①グラウンド内での飲食等は禁止します。
 - ②使用した観覧席は綺麗にし、ゴミは持ち帰ってください。
 - ③応援はスタンドで行い、危険物の持ち込みやベツを連れて入場はできない。
 - ④貴重品の管理は各団体、各個人の責任で行うこと。
 - ⑤競技中の疾病、傷害などの応急手当は主催者側で行うが、その後の責任は一切負いません。